

Title	彙報
Author(s)	
Citation	経済論叢 (1941), 52(3): 398-398
Issue Date	1941-03
URL	http://hdl.handle.net/2433/131508
Right	
Type	Others
Textversion	publisher

會學濟經學大國帝都京

叢論濟經

號三第 卷二十五第

月三年六十和昭

論 叢

經費支出の季節的調整…………… 經濟學博士 沙見三郎

戰爭經濟に關する一主張…………… 經濟學博士 松岡孝兒

中世イギリスの海運政策…………… 經濟學士 佐波宣平

景氣政策の問題とシニピイトホフの景氣理論…………… 經濟學士 青山秀夫

國際カルテルの諸問題…………… 經濟學士 靜田均

研 究

ハルムス世界經濟學とその周圍…………… 經濟學士 松井清

保險機構に於ける資本…………… 經濟學士 西藤雅夫

說 苑

コソホ・戰時租稅政策…………… 經濟學士 柏井象雄

附 錄

彙 報

外國雜誌論題

彙報

經濟學部

○二月十日付を以て教授堀川虎三氏は評議員を命ぜられ、教授
沙見三郎氏は依願評議員を免ぜらる。

經濟學會

○一月例会 一月二十五日(土)午後一時半より、樂友會館に於
て開催され次の報告があつた。

一、支那紙幣問題の所在とこれが統歸の策につきて 徳永助教授

今次事變の上海に波及し、昭和十二年八月十三日の戰端開始
に引続き實施されたる第一次のモラトリアムは八月十五日の非
常時期安定金融辦法に始まり同日二十日の非常時期安定補充辦
法を矢継ぎ早々に必要としたものであり、第二次モラトリアム
は十四年六月二十二日の新安定金融辦法から同日二十五日の安
定市面辦法に展開したものであつた。この間の經過は中國の戰
時金融對策としての國內通貨の措置或は爲替維持の對策として
の意義を有するは勿論であるが、これ等の辦法運営上には中國
の性格を或は巧妙に利用し或はかくせざるを得ざる必然的進展
としてこれが内容的乃至本質的檢討を要請するものがある。

ここに中國紙幣問題の所在を支那側近代的新式銀行發行券に
一應追求して、これが整理乃至統歸の策が政府側の積極的意圖
と民間側の自衛的考慮の中に(それは意識的といふよりは自然
的に)醸成されたる所以を述べ、紙幣を繞りての或は不解決の

解決或は無集中の集中に觀點を置いて領用制の機能を發生史的
に解説して今次事變におけるその持つ意義を檢討したるこの
種研究についての開拓的報告を試みたものである。

當日の出席者——沙見、八木、堀江、中谷、徳永、靜田、白
杉、松井、田杉、出口、堀江、鈴木の諸先生。青盛、有田、有
井、一谷、上杉、岡本、岡部、尾上、大橋、柏井、河野、澤村
島、前田、山崎の諸氏。

○會員動靜